

「ク」ライミング世界選手権2019でボルダリング優勝、複合でも優勝を果たし、2020年の大舞台への切符を手にした、榎崎智亜選手です！」

8月25日、Numberとアイディホームのコラボにより実現したスペシャルイベント、「家族で楽しむスポーツクライミング体験会」が今年も東京で開催された。キッズクライマー達を指導するのは、アイディホームがサポートするプロクライマーの榎崎智亜だ。日本スポーツクライミング界のエースが世界の頂点に立ったのは、イベントのわずか4日前のこと。憧れの選手を前に子ども達の目がキラキラと輝いた。

体験会にはこの日のために日本各地から集まった小学1年生から中学3年生までの約130人が参加。1日に3回行われ、各回ごとにおよそ40人がインストラクターの指導を受けながらウォールに挑む。

「世界一になって、みんなに会いたいと思っていたので、その夢が実現できてとても嬉しいです。今日は最後まで諦めずに、高い壁に何度も挑戦してほしいと思います」

榎崎から子ども達への熱いメッセージを皮切りに体験会はスタートした。会場内には仲間を応援する子ども達の「ガンバ！」の声が響き渡る。必死に手を伸ばして挑戦する小さなクライマーが行き詰まると榎崎先生「がすかさずサポートする。ただ前回と違い、クライミングをするのが初めてという子どもが少なく、ほとんどが経験者。初級のルートはサポートなしで軽々と登っていく姿が目についた。

「普段からクライミングジムに通っている子ども達が多くて驚きました。スポーツクライミングがこんなに普及しているんだと分かって、嬉しかったですね」

静岡県から参加した松岡響樹くん、颯樹

くん兄弟も地元ジムのジムに通う小学生。「今日は榎崎選手に会えてすごく嬉しかった」と口を揃える。群馬県から来場した山口さん親子はプロクライマーに教えてもらえないまたとない機会と、参加を決めた。「なかなかゴールできなかったんですけど、周りの子ども達の「ガンバ！」の声援を受けて一生懸命がんばってました」と、娘の活躍にお父さんの隆志さんは顔をほころぼせる。

トップクライマーとして忙しい日々を送りながらも、榎崎が積極的に体験会を開く理由はここにある。

「僕が小学4年生でジムに通い始めた頃は、世界のトップクライマーの技を見たかと思ってもそんな機会はありませんでした。だからこそ今の子ども達には世界のトップクライマーの技術や凄さを感じてもらいたいしクライミングってこんなに楽しいんだと思ってもらえたら最高ですね」

高い壁に挑む仲間を応援し、ゴールしたらハイタッチを交わし健闘を称え合う。最初はぎこちなかった子ども達の表情にもいつの間にか笑顔が広がっていた。そして、約1時間の体験会はあっという間に終了！

榎崎は笑顔で浮かべながら「登れなくても楽しんで挑戦してきたからこそ今の自分がある。子ども達にはこれからもクライミングを楽しみながら、長く続けてほしいと思います。来年もこの体験会で成長した姿を子ども達に見せられるように頑張ります」

2020年、ひととき輝く金色のメダルを手にした榎崎智亜に会えるのが、今から待ち遠しい。



1 ホールドにぶら下がり、自由に移動する榎崎智亜。世界の技に子ども達から驚きの声が上がった。2 榎崎選手が教えてくれたから、ゴールにあと少しのところまで行けたよ」と喜ぶ山口柏月峰(はつね)ちゃん。3 「憧れの選手を前にいい顔をして登っている姿を見て、嬉しくなりました」とお母さんの松岡若奈さん。4 5 壁に挑むキッズクライマーをサポート、ゴールしたらハイタッチで迎える

Climb to the Dream

[世界NO.1クライマーが指導!]

榎崎智亜が伝える スポーツクライミングの魅力。

夏の暑さが残る8月25日、4日前に世界ナンバーワンに輝いたばかりの榎崎智亜選手をゲストに、Number×アイディホームがコラボしたスポーツクライミング体験イベントが開催された。

福田剛=文
text by Tsuyoshi Fukuda

榎本麻美=写真
photographs by Asami Enomoto



「挑戦するってワクワクする」榎崎選手のスペシャルムービー公開中
<https://www.idhome.co.jp/> アイディホーム 検索

アイディホームが伝えたい
チャレンジする楽しさ

今回で2度目の開催となりましたが、みなさんが夢中になって楽しんでる笑顔がとても印象的でした。そして、挑戦する子ども達に「ガンバ！」と声援を送る保護者の方々も、一体となって会場を盛り上げてくれました。頭と体を使う総合運動である「スポーツクライミング」には、筋力だけではなく技術や想像力、そして諦めない心をバランスよく、楽しみながら発達させることができる魅力があります。ぜひもっともっと多くのご家族に、チャレンジする楽しさを感じていただきたいと思えます。私たちアイディホームの夢である「マイホームの夢を、全ての人に。」も、まだまだ高く遠い目標ですが、ひとつひとつ汗をかき、知恵を絞って、チャレンジを続けることを楽しんでいきます。